

# 開発と移民

## ～帰国移民の可能性～

フランス語専攻4年 富田 詩織

# 1. 導入

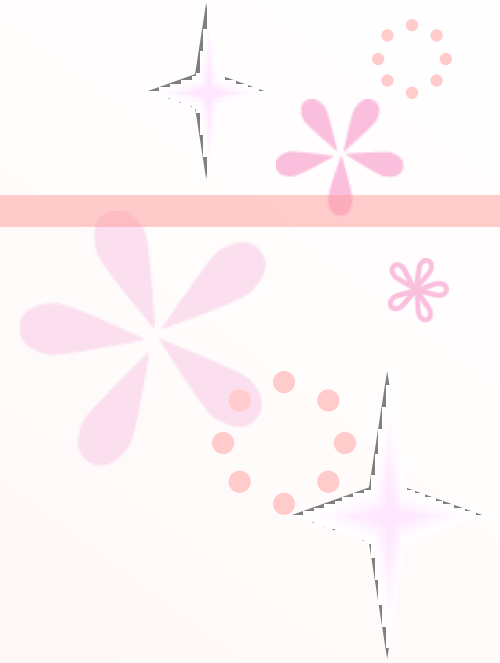
## ●なぜ？

パリ留学中、モロッコ人移民の定住化

- ・若者が次々と呼び寄せられる
- ・モロッコに残っているのは両親だけ

→本当にモロッコ的发展に寄与しているのか？

国内のお金の流通増≠国内自体の发展





## ● 移民

「通常の居住地以外の国に移動し少なくとも12ヵ月間  
当該国に居住する人のこと(長期の移民)」

(1997年国連事務総長報告書)

## ● グローバル化にともなう移民

1998年 先進国の労働力4.2%

現在 世界で8600万人、うち3200万人は途上地域  
...賃金の差がそれほど大きくない国間も多い



- 推進力

- 低所得国の貿易自由化

- 移民流入の多様性

- 裕福な国→裕福な国

- 貧しい国への移民

- 女性

- 将来的流れ

- 移民:人口的、経済的な国家間の様々な格差による

- 格差の拡大、移民の増加



## ● 送金の流れ

発展途上国の外部資金において、海外直接投資に次いで2番目に大きい(国連)

- ・信頼できる、安定した収入源

## ● 帰国移民

故郷の状況が改善の必要

スキルや貯蓄とともに帰国する→発展

定期的に2国を行き来する者

- ・アフリカ連合 ディアスポラを積極的に地域の発展に参加



## ● 移民と経済全体のパフォーマンス

多量の送金を受け取る国≠よい経済パフォーマンス  
(経済パフォーマンス M.Abella)

よくない経済パフォーマンス 移民の割合が高い国に集中  
→発展の準備ができている国で確かに発展に寄与する  
貧困削減

## 2. 方法

- 仮説:

移民による生産性を最も効率的にするためには、移民が元の国に戻り、現地にノウハウを根付かせ、出身国自体を発展させることである。

- 在仏移民NGO

“Migration et Développement(開発と移民)”

フランス在住のモロッコ人移民が結成

モロッコ僻地の山村で村落開発に従事



- 沿革

- ・モロッコにおける外国移民

第一次世界大戦～

1992年 182万人、うちフランスに72万人

山地貧困地帯から、未熟な農民→教育を受けた青年も

- ・創設者 ジャマル・アルフサイン

1986年M&G設立、92年 村落開発プロジェクト





## ● 組織

マルセイユ本部

会員：フランス人、スペイン人、オランダ人、ロシア人  
モロッコ人、アルジェリア人、チュニジア人

目的

- ①開発主体となる、出身地での社会的地位の再発見
- ②帰国に際して良好な生活条件を生み出す
- ③受け入れ社会への統合
- ④フランス人と村落移民の結びつき
- ⑤職業教育と人間形成



## ● 活動

### 村落開発プロジェクト

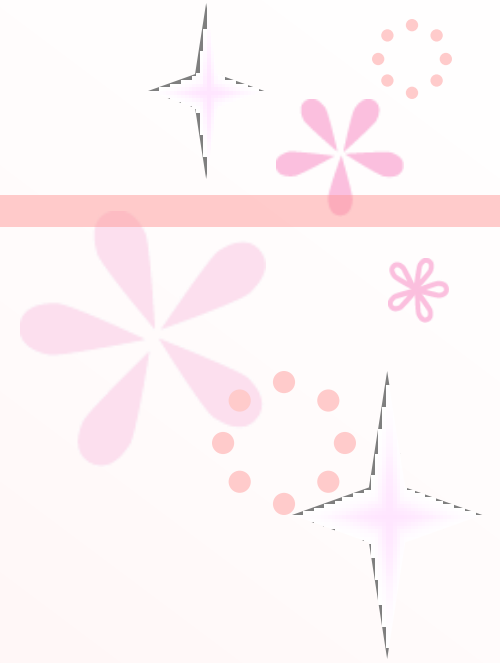
- ① 農村電化
- ② 水利事業
- ③ 識字教育
- ④ 医療
- ⑤ 授産所・職業教育
- ⑥ その他 道路建設、もすく、図書館、宿泊施設建設、研修生

## ● 主要パートナー

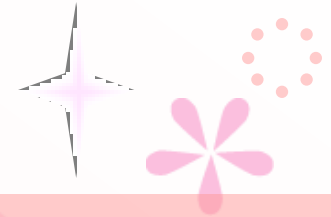
省庁

大使館 日本、フランス、ドイツ

機関 世界銀行(情報設備恵与)

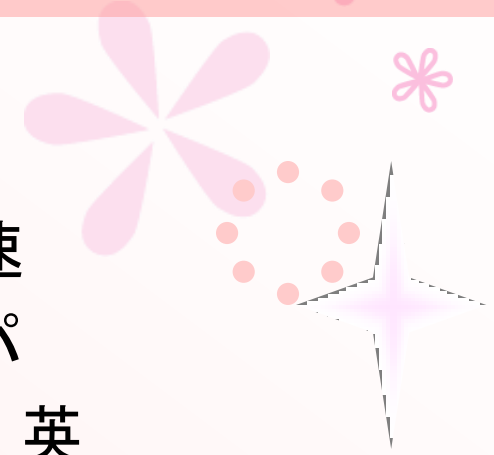


# 3、データ&分析



## ●アフリカ

- ・サブサハラアフリカからの移民の規模小  
生産年齢人口と都市化 雇用不足→移民加速
- ・アフリカ移民の約半数 アフリカ外、ヨーロッパ  
仏、サウジアラビア、米、英

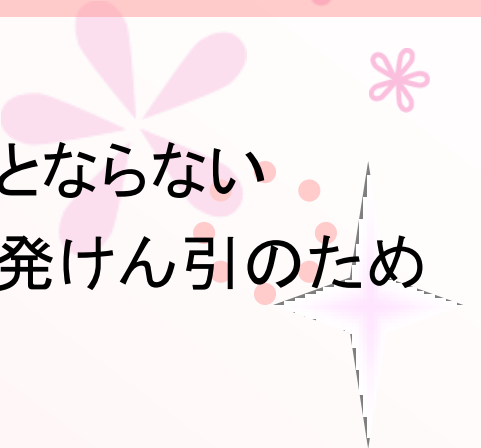


## ●フランス

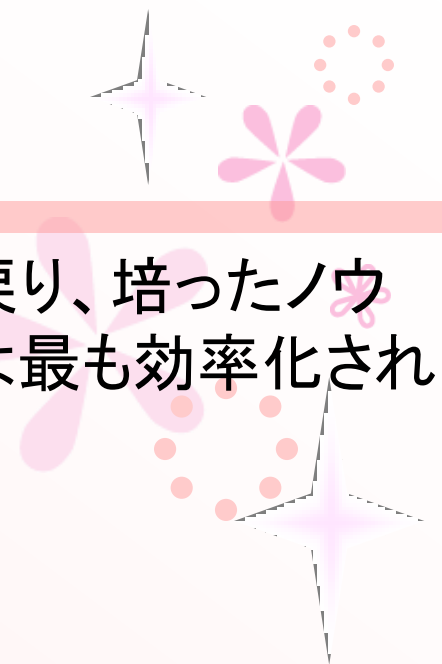
- ・ヨーロッパ、北アフリカ中心・その他 12%
- ・アフリカ(北ア除く) 従業員...ベビーシッター等家庭内サービス  
手工業、商業、工員 少ない



## ● アフリカからフランスへの移民

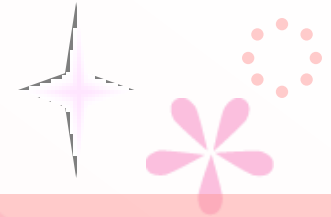
- ・従事している職業の問題、現地のノウハウとならない
  - ・一国単位では人数が少ない、NGO設立・開発けん引のためには数カ国からの移民が協力
- 

# 4. まとめ



- 仮説: 数年間他国で就業した後に出身国に戻り、培ったノウハウを根付かせることにより、移民の生産性は最も効率化される  
→ 証明できず
- アフリカからフランスへの移民  
単純労働・出身国の発展に寄与するスキル ×
- M&Dの効果 ミクロ的、社会的・文化的側面
- 今後  
知識人、熟年労働者、金融に携わりFDI牽引に従事する帰国移民の存在

# 5. 参考文献



- “Migration and development”, Dhananjayan Srisikadarajah 2005
- “Towards a fair deal for migrant workers in the global economy”, International Labor Office Geneva 2004
- “International Labor Migration and Development: The ILO perspective”, International Migration Program International Labor Office 2007
- 「モロッコ村落の開発と在仏移民NGO -M&Gの事例-」, 宮治 一雄
- “Note de presentation” Douar Ait Iktel, C.R d’Abadou
- Realinstitute : [http://www.realinstitutoelcano.org/wps/portal/rielcano\\_eng/Content?WCM\\_GLOBAL\\_CONTEXT=/elcano/Elcano\\_in/Zonas\\_in/DT%2019-2007](http://www.realinstitutoelcano.org/wps/portal/rielcano_eng/Content?WCM_GLOBAL_CONTEXT=/elcano/Elcano_in/Zonas_in/DT%2019-2007)
- EUROSTAT: [http://epp.eurostat.ec.europa.eu/statistics\\_explained/index.php/Migration\\_and\\_migrant\\_population\\_statistics](http://epp.eurostat.ec.europa.eu/statistics_explained/index.php/Migration_and_migrant_population_statistics)